

伝統文化の

継承と発展

に向けたビジョン

したしむ

みがく

つながる

★すべては地域の未来のために★

社団法人能代青年会議所
2011年度夢創造委員会

1. はじめに

私たち社団法人能代青年会議所は、「明るい豊かな社会」の実現を目指す20歳から40歳までの青年が集い、地域に根ざして活動する団体です。私たちの全ての活動の原点は、地域に対する誇りと愛郷心にあります。そしてその思いは60年もの間絶えることなく今日まで受け継がれています。60年の歩みとまちづくりへの「想い」を土台に新たな一歩を踏み出しましょう。

ここ数年来、人間関係の希薄化に伴って、地域コミュニティが崩壊したり、違いを認めず排除・対立したりするなど、問題解決能力の低下や孤立化が見られます。そのような社会の中で、地域の人々が共有できる誇りは自己を認識し、他者を理解する意識を育むものとして役割が期待されています。相互理解や寛容性を育む意義は今後ますます大きくなることが予想され、多様な個性を認め合えるゆるやかなコミュニティの創出と共有意識を通して多様な人と人とのつながりやネットワークが生まれることが期待されています。そういう危機に直面している今こそ、これまでの成功やその他様々な価値の定義やライフスタイルの変革が必要です。地域の人々の価値観が変わればまちはガラッと変わるのではないのでしょうか。ここで「地域の人々が共有できる誇り」とは新たに生み出すものではなく、地域に根付いた伝統や歴史にあるものと考えます。

世界を考える事、国を考える事、地域を考える事は別々ではなく、地域のアイデンティティを確立するということは結果的に国や世界のアイデンティティ確立につながります。つまり、多様なつながりに生かされている現代の地域社会は、生活環境を含めて地域、国、世界のことを踏まえ考えていく必要があります。国、世界の模範となるような地域を創ることが大事ではないでしょうか。地域主権とは地方分権という意味ではなく、地域のアイデンティティを確立するために商・官・学・民が手を携えて一つの方向に向かい進んでいくことにより達成されるものであると思います。地域のアイデンティティこそが、国をそして世界を動かすと信じています。

現在、能代同様全国各地でも様々な問題を抱えています。しかし、能代には有形無形の素晴らしい伝統文化があります。伝統文化の継承と発展に向けたビジョンは、JCだけではなく地域に住む人、地域で働く人、地域で学ぶ人など多くの方々に向け作成しました。なぜならJC（一つの団体）だけでは明るい豊かな地域にすることは不可能だからです。そしてそのビジョンを実現するためにも、民間企業・行政・各種団体・地域住民の皆様と共に行動していくことが必要です。

ビジョンは壮大です。理想です。夢です。しかし地域の民間企業・行政・各種団体・地域住民が一体となり同じ方向を目指せば実現可能であると信じています。必要なことは望むことです。ひとりでも多くの方が望むことです。私利私欲に陥らず公の心を携えて実現していくことを強く望み、確固たる意志を持ち言い続けること、怯むことのない情熱を持って行動し続けることです。このような想いのもと、我々はここにビジョンを発信します。

2. 伝統文化の継承と発展に向けたビジョンの特性

これからの価値の枠組み

経済が右肩上がりであった過去において、公共事業による大規模開発はまさにまちづくりの核でした。物質的豊かさを前提とした価値観は、高度経済成長を支えた日本の活力の基礎でしたが、物に満たされ飽和状態を超過している現代において同様の活力を望むことはもはや困難です。新しい価値観を確立すべき時代が来ているのです。

今、まさに時代が極まって、新しい価値の枠組みが求められています。それは困難が頂点に達した時に自然に生み出されるものなのかもしれません。その基礎となるいくつかの考え方が生まれ始めています。それは、スローソサエティという新たな社会像です。

「スローソサエティとは『多様なつながりに生かされている社会』のことです。人とのつながり、家族や地域とのつながり、地球とのつながり、命のつながり、そして、過去・現在・未来のつながり、世代のつながり—あらゆるものはつながっています。『つながり』という観点から社会を見直すと、さまざまな問題の本質がよく見えます。例えば、地球環境問題は人と自然のつながりの問題であり、教育問題は家族や地域とのつながりの問題です。今、社会で起きているさまざまな問題は、いろいろなところで『つながり』が断ち切れていることに起因していると考えています。

スローソサエティへの取り組みは、このつながりを紡ぎ直す運動です。」「スロー」とは、「ファスト」の反対語ではありません。もともと私たちは、自然の息づかいを感じながら、自然とのつながり、人とのつながり、そしてそれらと共生するための知恵を持って過ごしていました。自然や人と共生し、調和をとるための基準となる新しい「つながり」を持たなければなりません。そのキーワードが「スロー」なのです。自然、地域、人がつながることで、地域コミュニティの再生、地球の重み、守るべきものが今まで以上に理解できます。大切なのは、つながりを忘れないこと、失わないことなのです。スローソサエティは、大切なものを失いかけている現代社会システムをつむぎ直し、本当の豊かさが次世代に渡って持続する社会を目指しています。それは、「懐かしい未来」と言えるかもしれません。お金や物質的豊かさ以外の価値観を持ち、多様なつながりを実感しながら生活することで人とまちは豊かになります。スローな価値観によって築かれるスローソサエティとは、多様な価値観と多様なつながりによって、本質を見つめることのできるこれからの社会なのです。

「スローソサエティ」というこれからの社会を再定義し、それを後押しし支援する社会の実現のために、地域の資源をどう再構成していくかが、伝統文化の継承と発展に向けたビジョンを裏付ける価値の枠組みになります。

基 本 理 念

能代のまちの潜在能力を引き出し、可能性を再認識する
歴史から学び、新しい価値を見出す
新しい価値を具現化し、次代へつながる持続可能な共創共生社会を目指す
そして実践を通し、明るい豊かな社会の実現に貢献する

基 本 方 針

伝統文化は地域住民の共有財産です。様々な機会を通じて、地域住民が伝統文化（能代七夕）に「したしむ」ことにより多くの人の共感を生み、豊かさを実感する文化振興を図ります。

地域の人材や文化資源を活かし、能代にふさわしい文化の創造を図ります。更に、伝統文化（能代七夕）に「みがき」をかけて、特色ある文化を創造し、市民と共有していきます。これらの取組みにより、市民の伝統文化への誇りや愛着を育むとともに、活気あふれる魅力的なまちをつくります。

広い視野をもち、市民相互、大人と子ども、地域内外の人など、人と人、人と地域が「つながり」伝統文化によるふれあいを通じながら、活気あふれる豊かなまちづくりに取り組みます。

人が変わらなければ、まちも変わりません。まずは、自らが変わることで、それがまち豊かにする第一歩です。

ス ロ ー ガ ン

「したしむ みがく つながる」

私たちの考える能代のまちづくりは、継承、発展、協働という三つの軸を基本にしています。
「活気あふれる豊かな」を実現するために、「したしむ みがく つながる」という日常的な言葉をスローガンとしました。これらは、私たちが行動し続けていかななくてはならないことを、とても判りやすく表現しています。

「まちづくり」を実践できる社会の仕組みづくり、それを実現するための取り組みが「したしむ みがく つながる」です。人はこれを繰り返すことで、更なる輝きを放ちます。

私たち能代青年会議所は、このビジョンを単なる理想・夢に終わらせることなく、実現に向けて行動することを宣言します。

伝統文化の継承と発展による未来イメージ



「伝統文化振興のための施策」

「伝統文化振興により
めざますまちの姿」

みんなできくめる「わ」のまち能代・夢創造都市
「伝統文化（能代七夕）」の継承と「新風文化」との調和・発展

活気あふれる地域社会

「伝統文化振興の基本方針」

伝統文化振興による
交流のまち

地域性を活かした
魅力あふれるまち

次世代を育み
継承するまち

(1) 伝統文化の振興と
活動の活性化

- ① 伝統文化の振興
- ② 伝統文化に触れる機会の創出
- ③ 地域住民団体、ボランティアなどの活動支援
- ④ 伝統文化を担う人材の育成

(2) 交流の促進と
活動拠点の整備充実

- ① 世代間交流の促進
- ② 地域間交流の促進
- ③ 活動拠点の整備充実
- ④ 身近な活動の場の創出
- ⑤ 活動のネットワークづくり

(3) 伝統文化財の
保存と活用

- ① 文化財などの適切な保存及び活用
- ② 伝統文化遺産への理解を深めるための事業の推進
- ③ 地域住民ぐるみによる伝統文化遺産を活用したまちづくりの推進
- ④ 伝統文化遺産から発展したものを発信する

(4) 伝統文化の
継承と活用

- ① 伝統文化の保存と継承
- ② 伝統文化の後継者の育成
- ③ 伝統文化の公開

(5) 次世代を担う
人づくり

- ① 教育機関における伝統文化鑑賞機会の充実
- ② 創作学習の充実
- ③ 郷土学習の充実

(6) 地域内外への
情報発信

- ① 通信ネットワークを利用した伝統文化情報の発信
- ② 活動情報の共有体制の構築
- ③ 地域の伝統文化遺産のデータベース化と活用

(7) 伝統文化と
産業経済の融合

- ① 伝統文化関連産業の育成
- ② 伝統文化を活かした産業経済活動
- ③ まちづくり観光の推進

「伝統文化振興プロジェクト」
「大型七夕の復活」

「伝統文化の継承と発展」
プロジェクト

「伝統文化風致のまちづくり」
プロジェクト

「未来に羽ばたく人づくり」
プロジェクト

「観光資源活性化」
プロジェクト

「地域コミュニティ活性化」
プロジェクト

3. 理想へのアクション～地域の活性化

明るい豊かな社会を目指し活動を行う上で、理想実現の最初のステップとなる、まちづくりの糸口が必要となります。どこから始めても良いのでしょうかけれども、やはり現状の地域が求めているまちづくりに、理想に向けての最初の一步、まちづくりの糸口を見出すのが、最適であると思います。地域に求められていないまちづくりは、自己満足の活動に陥りやすいからです。行政、NPOを問わず現在のまちづくりに求められているのは、地域の活性化です。まちの衰退や低迷という状況が、わかりやすい形で見えてきているからです。その例が中心市街地の衰退です。さらに高い視点から見るなら市の財政状況という事になります。能代市の状況はまちを歩けばわかります。また、新聞等でも報道されています。

4. 地域活性化の目安～交流人口の増加

地域の活性化を目指すとして、どういう状況になれば地域が活性化していると言えるのでしょうか？活性化している、それは地域に活気があるという事です。では活気を作り出すもの、活気があると判断できる状況を作り出すものは何か？それは人です。そこに人がたくさんいるかいらないか、多くの人が入れ替わり立ち代り集まってくる状況、これが活気あふれていると判断できる状況であり、この状態がいつまでも続いている状態をさして活性化していると言えるはずですが、これを現在の商店街にあてはめてみると、人（客）がいらないから活気がない、人がいらないからここで店をやっても意味が無い、だから空き店舗が増える、と現在の商店街の状況にしっかりあてはまりません。地域の活性化を単純に示す最初の指標、目安はこの地域に人が大勢いるか、人が大勢この地域にきているか、という事になります。ならば地域の活性化は、人を大勢この地域に集めること、すなわち交流人口の増加を行えばいいわけです。

5. 交流人口の増加による地域の活性化～テーマへの疑問

ここで一つの疑問が出てきます。青年会議所は明るい豊かな社会を作る団体である。観光客の誘客などという観光の為だけの事業を行えば良いのか？それが明るい豊かなまちづくりと言えるのか？という疑問です。確かに青年会議所は明るい豊かな社会の構築を目指す団体です。しかしながら、前文で説明した通り明るい豊かな社会とは、簡単には手が届かない、一つの活動、一つのアクションでは到達できない、青年会議所が追い続ける理想なのです。だから目指す理想をしっかりと見つめながら、一步一步前に進んでいく。一つ一つの活動により、一つずつ成果を積み重ねる事によって、目的に向かう道のりを一步一步、進んでいくのです。理想に向けてまずはここから始めようというのが、観光客の誘客、地域の交流人口を増やそうという事なのです。いきなりすべてを解決するまちづくりは存在しません。だから一点突破のまちづくりから始めようという事です。

6. 交流人口の増加が地域に与える効果

交流人口の増加は複数の効果を地域に与えます。一つは地域経済への影響です。交流人口が一人増えると統計上、定住人口4人分の経済効果があるそうです。二つ目に中心市街地活性化のチャンスが生まれます。商店街に行くのが目的ではなくても、多くの人商店街を行き交うようになれば、ビジネスチャンスが生まれます。ビジネスチャンスがあるところに新しい出店も考えられます。三つ目に、いろんな地域から多くの人訪れるようになると、地域住民の意識に変化が生まれます。いろんな価値観をもった人達との交流は、地域住民に新たな価値観を与えるでしょう。ありがたくない影響として、何らかの問題が発生することもあるでしょうが、これらを解決しようという住民の自治努力が生まれます。毒が薬になる事もあるのです。国は観光立国という政策を打ち出しました。県は観光戦略をつくりました。能代市は木都、能代カップ（バスケットボール）、白神山地、能代港まつり、花火大会、おなごりフェスタ等、地域への誘客をめざしています。これらはすべて、交流人口の増加が与える効果を期待しているのです。

7. 交流人口増加のキーワード～まちの力

交流人口の増加を目指すには、地域の人々が賑わい、人が集まる理由（キーワード）が必要です。そのキーワードとして「大型七夕復活」を掲げます。従来のまつりを更に発展させ、まちが賑わい人を集める力を創出します。この新たなまちの力を使い、地域内外の交流人口を増やし、交流人口の増加によって地域の活性化を図るのが、ビジョンの具体的な活動（アクション）となります。目に見えていたまちの力を使う活動もあれば、埋もれているまちの力、目に見えていなかったまちの力を発掘、発展させ活用する活動もあります。

どんな手法を使うにしろ、地域の交流人口を増やすキーワードは、まちが賑わう力、人を集めるような力、すなわち新たな地域資源を創り出すことが重要です。

8. まちの力による地域の活性化～拡大するまちづくり

地域資源があるまちの力を活用した活動は、様々なスタイルが考えられます。なぜなら地域資源とは歴史的資源、文化的資源、人的資源（技術、文化の継承者等）環境資源が多岐にわたっているからです。

能代市としての歴史、文化、人（技術、文化の継承者）などを活用した活動となり、活動エリアは中心市街地となります。これを一つの行動設定としてまとめると「大型七夕復活」のキーワードに、歴史、文化、人的資源を活用した事業による交流人口の増加により、中心市街地の活性化を図ることができま。また様々な目的で地域を訪れる人で賑わいを創り出す活動も可能になります。まちづくりの柱となるテーマは、「交流人口の増加による地域の活性化」を図ることです。交流人口の増加は、地域経済の活性化のみを目的とする事が多い中で、経済だけでは無い地域の活性化としたのは、交流人口という言葉により広い意味を持たせている為です。交流人口とは単純に観光客のみをさす言葉ではありません。この地域で何かを学ぼうとする人達など、何らかの目的を持って地域を訪れる人すべてが交流人口です。経済的な交流だけではなく、人的な交流や情報の交流の為に地域を訪れる人達も、情報発信の効果による交流人口の増加です。（注：人的な交流も情報の交流も、地域に学びたい情報や会ってみたい人材等がいてこそこの事ですので、情報発信がキーワードになる事はありません。情報発信は手法であって、まちの力ではないからです。）「大型七夕復活」の狼煙を地域全体に広め、新たなまちの力として活用し多目的な戦略を用いて、活性化につなげていきます。

9. まちづくりを支える人づくりの柱～能代青年会議所のポテンシャル

まちづくりが求める人の力、まちづくりを支える人の力を拡充する目的で人づくりの柱としました。人づくりの柱のテーマに「青年会議所と青年会議所メンバーに必要とされる力を磨きあげ、また薄れてしまった力をとりもどす事」をあげています。必要とされる力、薄れてしまった力とは本来、能代青年会議所に備わっていたものですが、メンバーの修練としての各種セミナーの開催に重点を置かない状況が続いた事もあり、まちづくりに必要な力である「まちづくり活動への積極果敢な取り組みを担うリーダーシップ力」、「効果的なまちづくりを創りだし、地域に定着させるなどまちを変える力、変えていこうとする継続力」が薄れてきてしまっています。近年のメンバーの減少、拡大力の低下もここに原因があると考えます。青年会議所に魅力がなければ、わざわざ年会費を支払って入会しようとは思わないからです。解説の1で青年会議所の行動綱領であるJCの3信条を紹介しました。修練、奉仕、友情、この3つは独立した信条ではなく、修練によって培われた力で奉仕を行い、友情が修練と奉仕を支える。ひるがえって、友情をつちかう事、奉仕に徹する事が修練につながる、いわば三位一体の関係にある事も注釈に加えました。これは魅力あるJCマンの姿でもあります。現在の状況は3信条のうち、修練が抜け落ちて三位一体が崩れていると言えます。多用な変化を続ける社会に適応したまちづくりを続ける為には、情報や知識を蓄える事で身につけるまちづくりの術と、明確な目標設定と行動の動機付けを養う指導力開発によって身につける積極果敢な行動力が必要です。修練の復活はまちづくりに必要な力と共に、能代青年会議所とメンバーにかつて以上の魅力を与える事となり、それが拡大力の向上に繋がるものと考えます。まちづくりの柱を支える人づくりの柱は、能代青年会議所のまちづくりに必要な力、

能代青年会議所のポテンシャルを高める柱なのです。能代青年会議所が策定したビジョンを簡単にまとめると「まちの魅力を引き出す、地域ツーリズムをプロデュースするまちづくり」により、地域の交流人口を増加させ、地域の活性化を実現するプランとなります。「大型七夕復活」をキーワードとした「伝統文化の継承と発展」に向けた活動は、地域の新たな活力源となる希望（ひかり）となります。これを今後の活動指針として、我々が愛するまちを、今よりももっと魅力あるまちに変えていく挑戦を今、この場所からもう一度始めていきます。

